

演習 I

科目ナンバリング SEM-301

必修 2単位

寺川 隆一郎

1. 授業の概要(ねらい)

市場は資源を効率的に配分し、新たな商品や生産方法を生み出す優れた仕組みだが、同時に、社会関係を流動化し、金融危機や格差を生み出す負の側面も持つ。この演習では、文献や資料を読み込むことで、市場社会の矛盾を、思想的に解釈する方法を学ぶ。テーマとしては、貨幣・信用を考えている。

毎回の授業では主に、参加者全員で共通の文献を読み、その内容について議論する「輪読」を行う。輪読を通じて、経済・経済学の基礎知識を確認し、レジュメの切り方、発表の仕方、討論の仕方、レポートの書き方といった学術の作法を学ぶ。また、参加者諸君ができるだけ自由に疑問を述べたり、発言したりする機会を作るために、「哲学対話」という簡単なワークショップも定期的に行う予定である。

2. 授業の到達目標

現代の市場社会のどのような点に可能性や問題があるのか、自分なりの視点で論じられるようになる
関心を持った主題について、先行研究を踏まえ、問題を提起し、適切に論証できるようになる

3. 成績評価の方法および基準

平常点70%、レポート30%

4. 教科書・参考文献

参考文献

梶谷真司 『考えるとはどういうことか 0歳から100歳までの哲学入門』 幻冬舎新書
フェリックス・マーティン(遠藤真美訳) 『21世紀の貨幣論』 東洋経済新報社
デイヴィッド・グレーバー(酒井隆史監訳) 『負債論 貨幣と暴力の5000年』 作品社

5. 準備学修の内容

発表担当者はレジュメを準備し、そのほかの参加者は毎回、質問やコメントを用意してくること

6. その他履修上の注意事項

毎回の演習に出席し、積極的に発言すること

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 哲学対話(1)
- 【第3回】 レジュメの切り方の解説
- 【第4回】 輪読:市場社会論
- 【第5回】 輪読:市場社会論
- 【第6回】 輪読:市場社会論
- 【第7回】 哲学対話(2)
- 【第8回】 輪読:貨幣論
- 【第9回】 輪読:貨幣論
- 【第10回】 輪読:貨幣論
- 【第11回】 哲学対話(3)
- 【第12回】 輪読:信用と信頼
- 【第13回】 輪読:信用と信頼
- 【第14回】 輪読:信用と信頼
- 【第15回】 まとめ